

コロナ禍における病院受診 広報げろ 2021. 4

コロナ禍における病院受診

新型コロナウイルス感染症への感染の懸念から、医療機関への受診を控えていませんか。過度な受診控えは健康上のリスクを高めてしまう可能性があります。様々な理由で受診控えが続き、診断が3か月遅れると、ほとんどの年齢でがんの10年生存率が10%以上短縮したという調査結果もあります。定期受診を控えたために慢性疾患の病状が悪化すると、コロナに対抗する免疫力も低下する恐れがあります。

現在金山病院では厚生労働省、日本医師会の指導の下、院内感染防止のガイドライン等に基づいて、しっかりとした感染防止対策を行っています。具体的には院内における新型コロナウイルス感染症対策チェックリストに沿った対策を実施し、感染症対策実施医療機関として診療を行っています。チェックリストについては病院玄関に掲示していますのでご覧ください。

病院ではウイルスが持ち込まれない様に最大限の注意を払っていますが、皆さんにも受診時、感染防止のために行っていただきたいことがあります。院内へ入場される際には不織布マスクをして、玄関で体温を測り、手指の消毒をし、指示されない限りマスクは外さない様にしてください。37.5度以上の熱がある場合には受診される前に前もって病院へご連絡ください。病院スタッフが問診し、発熱外来への受診方法などについてご説明いたします。

発熱外来では、車中、院外仮設テントなどで診察、抗原検査、PCR検査の検体採取を行います。必要に応じて胸部CT検査も行います。この場合一般受診者から隔離された特別の通路から入場し、その間20分程度、一般受診者の検査などは止めています。抗原検査は20分程度で結果が出ますが、偽陰性のこともあり、PCR検査は結果が出るのに一日程度を要します。そのため結果がはっきりするまでは自宅待機、場合によってはコロナ対応病院を紹介し、他人との接触を可能な限り避けるように努めています。手術の為の入院については手術の二日前に入院、個室管理、PCR検査を行って陰性を確認し、手術となります。最も感染の危険性の高い気管内挿管、抜管時には特別に感染防護措置をとって万全を期しています。

新型コロナウイルスは、人が運ぶのであり、物が運ぶわけではありません。どこで感染したかわからないという話を聞きますが、確実なことはマスクを外して人のいる所で飲食、談笑したということです。院内（室内）をいくらきれいに消毒しても感染予防については十分ではありません。ウイルスを持っている人を“消毒”出来ないのですから。現在の所、頻回のPCR検査でウイルス感染者を見つけ出して隔離することと、三密を避け、マスクと手洗い、アルコール消毒だけが有効な感染予防方法と言えるでしょう。

コロナ感染を恐れて検診を後に延ばしたり、慢性疾患の定期受診を怠ることは、健康管理のためにかえって悪影響を及ぼします。病院では職員は一丸となってコロナウイルスの病院内侵入を防止しています。しかし安全な病院は病院の努力だけでは守れません。皆さんも日常の生活行動に注意しながら感染予防を徹底し、病院職員とともに感染予防に努めながら、自分の健康を守るために病院を利用しましょう。

下呂市立金山病院 顧問 古田智彦